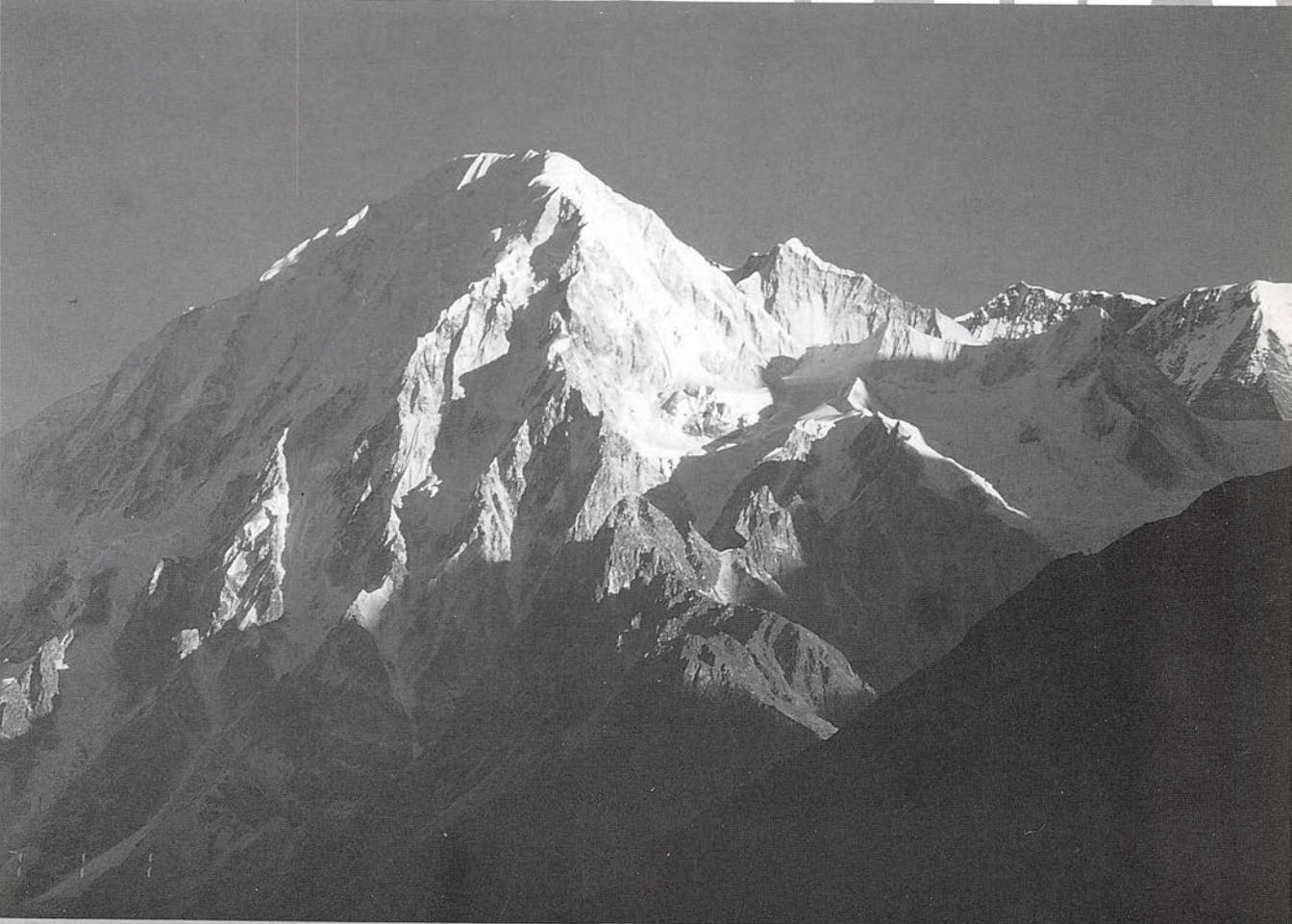


# HIMALAYA

## ヒマラヤ

### No. 286



**1995 SEPTEMBER**



**日本ヒマラヤ協会**  
THE HIMALAYAN ASSOCIATION OF JAPAN — HAJ

# 1996年登山隊員募集

## 玉珠峰 (6,179m)

世界の屋根である青藏高原に美しいスノーピークがあります。短い期間で高峰にアイゼンをきませたいと考えておられる方のために22日間のキャンプを企画しました。(H A Jでは既に2度登頂) 青海省の省都である西寧から西へ約1,000キロ。山中には1週間滞在の予定です。

記

1. 期間:1996年7月21日～8月11日(22日間)
2. 募集人員:10名程度
3. 負担金:60万円
4. 切り:定員になり次第
5. 資料請求先:H A J事務局

## ムスターグ・アタ (7,546m)

シルクロードのド真中、パミール高原にどっしりと腰を据えて聳え立ち現地に住む人々から「氷山の父」として親しまれているムスターグ・アタでサマー・キャンプを行います。なお、アタを舞

台としたサマー・キャンプはこの年をもって最後とする予定です。

記

1. 期間:1996年7月21日～8月25日(36日間)
2. 募集人員:10名程度
3. 負担金:85万円
4. 切り:定員になり次第
5. 資料請求先:H A J事務局

## ヌン (7,135m)

インド・ヒマラヤのサマーキャンプとして、1996年夏もカシュミール・ヒマラヤで開催します。カシュミールの盟主ヌンの高峰登山とラダックの素晴らしい雲上のヒマラヤの旅が楽しめます。

記

1. 期間:1996年7月21日～8月25日(36日間)
2. 隊員:10名
3. 費用:75万円
4. 切り:定員になり次第
5. 申し込み:H A J事務局まで

### 表紙写真

ギャジ・カンの遠征の後、今後の偵察を兼ねてマナスル西壁隊のベース・キャンプを訪れた。BCから弘前大学隊が初登頂したヒムルン・ヒマール(ネムジュン、7,139m)がこのように眺められた。

(田辺 治)

## ヒマラヤ No.286

1. PEOPLE ————— Oh In Hwan
2. エヴェレスト・ウィメンズ・サミット開催
13. ヒマラヤ・ニュース〈地域ニュース・ヒマラヤから・インフォメーション〉
16. インド・ヒマラヤを楽しむ(1) ————— 沖 允人  
— ダルチャからパダム、ダルムサラ周辺 —
20. 中国高峰登山15年小史(6) 山森欣一
24. 寸感・事務局日誌

韓国のヒマラヤ登山は、1962年秋に朴鉄岩氏(元H A J会員)らがダウラギリIIをマヤンディ・コーラから試登したのが始まりである。それ以来、昨年(1994)で33年であるが、ネパールの登山禁止期間ともぶつかったこともあって実質23年の歴史がある。

1971年春、朴鉄岩氏は10人の隊を率いて、前回のダウラギリ以来10年目にして、ローツェ・シャルに挑戦した。しかし、隊員の1人が高度障害に倒れ5人が付き添って下山。悪天にも襲われて8,000mで涙をのんだのであった。(岩と雪27号)

この23年の間に八千メートル峰に成功すること37回。延78人のサミッターが生まれた。(ブロード・ピークは未登。ヤルン・カン2人、ローツェ・シャル1人を含む)

ネパール、パキスタン(1981年から)、インド(1983年から)、旧ソ連(1989年から)、中国(1991年から)などのヒマラヤへ、209隊1,610人が入山した。日本は、昨年までの42年間(韓国のほぼ倍)に1,210隊9,064人の入山である。

韓国の死亡遭難者数は33人、死亡率2%であるのに対して日本のそれは222人、2.5%である。国は変わっても、ヒマラヤ登山の死亡率の高さについては共通しているようだ。

ラサで開催された「ヒマラヤ登山国際シンポジウム」に、「韓国ヒマラヤクラブ」の代表団として出席していたのが、呉仁煥氏である。

呉氏は、1965年大学を卒業し、67年正月には来日して西穂高に登山した。68年には韓国山岳会に入会。69年にはチューレン・ヒマールの偵察のため初めてネパールを訪れた。75年にアンナプルナI峰北面を偵察。

外国へ出るのがむずかしい時期に、どうしたらヒマラヤへ行くことが出来るのかを模索している時、日本の「山と溪谷」の広告を見て、山へ行くための仕事として、1980年にトレッキング会社である「西遊旅行(日本とは関係がない)」を設立したと云う。

トレッキング会社を作ると、ヒマラヤの情報を



逸速く入手できるし、パスポートを取得するのも何かと役に立つと考えたようである。

80年には3人でニルギリ北峰に出かけ、6,200mまで、84年は冬のサガルマータへ13人の隊を組んで挑戦したが、サウス・コル手前で敗退した。

86年は大西保氏らと日韓合同チームを組んでタウチェ。日本側は死亡事故のため中断したが、許永浩氏とシュルパが登頂する。

87年の冬のサガルマータもサウス・コルまで。

88年には、朴鉄岩氏らとヒマラヤクラブを設立。91年に初めて中国に出かけ、チョー・オユーを5人で登るが8,100mで断念。93年春には、4人でチョモランに向かった。4月13日許永浩氏とシュルパが北稜から登頂に成功したものの、下降路はネパール側の南東稜を下った。この記録の詳細は、ヒマラヤ262号に「もう一つのエヴェレスト、チョモランマ・トラバース」として紹介されている。

こうして呉氏は韓国のヒマラヤのパイオニアとして、数多くの登山隊をアレンジしてきたが、この秋に韓国からサガルマータ南西壁に登山隊が挑戦するが、冬の南西壁にもトライしたいと云う。

帰路、ラサから成都までの機窓から、眼下に広がる山々にカメラを向け、8,000m峰時代後の韓国登山界がやがて向かうであろう処女峰を物色する姿は、パイオニアとして、一つも二つも先を見越したリーダーそのものであった。

現在、韓国ヒマラヤクラブ副会長。(株)西遊旅行代表理事。オー・インワン 49才。

呉 仁煥 1946年6月29日生

# エヴェレスト

## ウィメンズ・サミット開催

1995

世界最高峰、エヴェレスト（チベット名チョモランマ、ネパール名サガルマータ）の女性初登頂20周年を記念して、「エヴェレスト・ウィメンズ・サミット」が6月24日、東京・日比谷の日生国際ホールで開催された。この20年間にエヴェレストに立った女性登頂者は32人を数えた。この内、7ヶ国から10人の女性サミッターが参加し、「エヴェレストの女性史」をテーマに語り合った。

このシンポジウムにはゲストとして6ヶ国のエヴェレスト女性登頂者9人のほか、カトマンズ在住の米女性ジャーナリスト、エリザベス・ハウリーさんが招かれた。

シンポジウムは、まず呼びかけ人の田部井淳子さんの基調報告から始まった。

### 基調報告

田部井さんは、1975年の初登頂から現在までの女性を取り巻く日本の社会の変化を、自らの体験から語った。

「肉体的能力の異なる男女同一パーティの不利さから女性だけで外国の山に登ってみようと、女子登攀クラブを結成したのが1969年。そして翌年アンナプルナⅢ峰に出かけた。この遠征の後、次なるターゲットとしてエヴェレストを選び、71年に登山申請をした。72年に75年春の登山許可を取得することができた。

当時テレビで“私作る人、僕食べる人”と云ったコマーシャルが流れていたように、日本の社会



▲シンポジウムに参加した女性エヴェレスタースター達



○田部井淳子 JUNKO Tabei

日本 JAPAN

1975年5月16日、「エベレスト日本女子登山隊」の副隊長として東南稜ルートから、サーダー（シェルパ・リーダー）のアン・ツェリンとともに登頂（女性初）。当時35才。以後も精力的に世界各地の山を登り続け、1992年には、女性として初めて7大陸最高峰登頂者となった。ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト代表として山岳環境問題にも取り組む。

ではまだ女性は家で家庭を守るべきだという風潮が強く、子供を置いて山に行くことに抵抗を感じない人はいなかった。それだけに、エヴェレストへの挑戦では資金的な問題のほか、登ろうという強い意志を持った女性を集めるのが大変だった。

3歳児を置いてエヴェレストへ行けたのも、1人では出来ない事を、2人になったら出来るようになった良きパートナーを得たお陰である。」

初登頂を果たした75年は、おりから国連主催の国際婦人年。メキシコで開催されていた大規模な国際会議に「女性初登頂」の報がもたらされると、会場全体に大きな拍手がわいたと言われる。ウーマンリブの台頭とともに、女性の強さを示す象徴的な出来事として扱われた。

「現在は、あらゆる分野に女性が進出し、活躍しており、社会的地位も向上。エヴェレストの時3歳だった娘も23歳になり、来春は結婚する。かつて子供を置いて出た「非情な母」は、好きなことをやっても、娘もちゃんと結婚させる「器用な母」と言われるようになった。」

「非情」から「器用」へ。これが女性を巡るこの20年間の変化を物語っているようである。それでも「男性の意識改革は緩慢と思われる」ともチクリ。

報告の後、75年の初登頂時のスライド紹介があり、装備などに20年の歴史が感じられた。当時、サウス・コルに散らばった酸素ボンベはそれほどでもなく、ゴミとして気にならなかったが、最近の写真を見せられて驚いた。やはり私たちは礼儀正しく山に登らなくてはならないのでは、と考える「ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト・オブ・ジャパン」という組織を起こしてヒマラヤの環境保護運動を行っているともアピールされた。

\*

続いて1975年5月、田部井さんの初登頂から僅か11日遅れて北稜から登頂した中国のバンドゥ（潘多、57）さんが基調報告を行った。

この20年間で30人余の女性がエヴェレストに登頂したことは、「男性にできることは女性にも同じようにできることを示した」歴史的な事実であ



○バンドゥ 潘多 PAN DUO

中国 CHINA

日本女子隊より11日遅れの1975年5月27日、中国登山協会チョモランマ登山隊の隊員として、他の8人（男性）とともに登頂。北稜からの女性初登頂。当時37才、チベット出身。3人の子供がいる。その後、全国人民大会議（国会）の議員となり、現在は全中国スポーツ連盟副議長、中国登山協会副会長をつとめる。



○リディア・ブレディ LYDIA BRADEY

ニュージーランド NEWZEALAND

1988年10月14日 東南稜から無酸素登頂 当時27才。

ニュージーランド・チェコスロバキア合同隊のメンバーとして参加。登頂時は他の隊員から離れて単独行動だったこと、シャッターが凍りついて頂上写真がなかったことなどから、一部に無酸素登頂を疑問視する声も出たが、今では前後の状況などから登頂が認められた形となっている。1987年にはガッシャブルム2峰(8035M)にアルパイン・スタイルで登頂。物理療法を学ぶ。

る、と語り、そして、政治、経済、文化などあらゆる面で女性と男性は平等であるべきだと強調した。

昌都に生まれたパンドゥさんは、「子供の頃から山に囲まれて育ち、山に親しんできた。59年にムスターグ・アタに登頂した後、61年には中国女性登山隊に参加してコングール・チュービェに登頂したが、足の指を5本落とすことになってしまった。

75年、チョモランマ登山隊に参加した時は、既に37歳で3人の娘の母親だった。肉体的に若くはなかったが、自分を含めた世界の女性登山家の強い希望であったとの思いを実現するために登った。

北稜の第1ステップと第2ステップに梯子を掛け、それを残してきてしまったが、今ではこのルートに登る人達に役立っている。頂上には無酸素で約70分も居り、横たわって心電図なども取った。」などと当時の模様を語られた。

また、お国柄「登頂は中華人民共和国建国後の自国の女性の面目を示した」とも語り、「今年9

月、北京で開催される世界女性会議と同様、今回のように、世界の女性登山家が集まることは、平和、発展、平等の象徴であり、意義深いものだ」と語られた。

それぞれのエヴェレスト

リディア・ブレディ (33)

彼女はスライドを使ってエヴェレストに至る自分の登山歴を語った。

17歳から登山を始め、19歳でアラスカ、ヨセミテなどを登りまくる。ヨセミテでは10本のハード・ルートを攀る。1984年に初めてヒマラヤへ出かけチョー・オユーに挑んだ。87年にはガッシャブルムII峰にアルパイン・スタイルで登り、オセアニアの女性初登頂となる。86年にはジネット・ハリソンとともに英国の公募隊に参加し、ブータンのガンケル・プンスムに出かけ、85年のHAJ隊と同じルートに挑んだが、登頂は断念。懐かしい恐竜の背を思わせるような雪稜のスライドが紹介



○バチェンドリ・パル BACHENDRI PAL

インド INDIA

1984年5月23日 東南稜から登頂 インド女性初登頂者

インド登山財団(IMF)が組織したエヴェレスト隊20人(うち女性7人)のメンバーとして参加、2度の雪崩事故を乗り越え、女性隊員としてただ一人登頂した。当時28才。1993年春のインド・ネパール女性合同隊では隊長をつとめた。現在は、遭難したシェルパの子供を引き取っている。



○サントシュ・ヤダブ SANTOSH YADAV

インド INDIA

1992年5月12日(当時25才)、1993年5月10日(同 26才)と女性では初めて2度にわたる登頂を果たす。いずれも東南稜から。

2回目の登頂時は、パチェンドリ・パルを隊長とする、インド女性14人、ネパール女性2人、インド人男性インストラクター3人の計19人の女性隊。インド女性7人、高所ポーターら18人が登頂した。19才のインド女性、ディッキー・ドルマは最高峰の女性最年少記録を作った。

された。

88年ニュージーランドとチェコスロバキアの合同隊のメンバーとして参加し、女性として初めてエヴェレストの無酸素登頂を果たした時の模様は特に詳しく語られた。

この時の登頂については、リーダー以下同行した3人のニュージーランド人は、ルール無視に腹を立て、彼女が高所にいるうちに下山してしまい、カトマンズで登頂出来るはずがないと言明。カメラが凍りついて頂上での写真が無かった事などから、登頂の真偽が問題となった。

彼女の説明では、「10月13日の12時半ころにサウス・コルに着き、翌朝2時30分にサウス・コルを出発。無酸素で頂上に向かうアン・リタなどと一緒に頂上に向かった。8,400mまでは楽だったが、それから先が辛かった。南峰で10~15分程迷った後、頂上の100m程下でスペイン人に会った。その時14時30分と言われた。頂上に着いた時はホッとしたり。南峰まで下って初めて生還出来ると思ひ、飛び上がって喜んだ。夜になってサウス・コルに

戻りスペイン隊と会い、彼らから祝福された。」と語った。

司会者から「頂上の写真が無く、登頂時間もはっきりしなかったためにあなたの単独登頂は一部で疑問視されたが……」の意地悪な質問に、彼女は「時々男は女の成功にジェラシーを感じるものよ」と軽くかわし、写真については「写真を撮るよりも無事に下る方が大切。カメラが凍って撮れなかった事もあったが、私の登頂は非商業的なもので、写真は余り撮らない主義。これまでも頂上で写真を撮ったのは1~2回しか無い。」と語った。

エヴェレストの無酸素登山をなし遂げた気丈な彼女であるが、サヨナラ・パーティの席上で、八木原罔明氏から冬期サガルマータ南西壁登山隊の写真集を贈られると、涙ぐむ一幕もあった。彼女の次の目標は、南西壁からの登頂のようである。

パチェンドリ・パル (41)

1981から登山を始め、3年後の84年にインド女性として初めてエヴェレストのサミッターとなっ

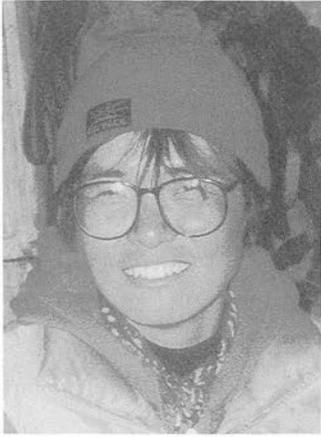


○グイ・サン 桂 桑 GUI SANG

中国 CHINA

1990年5月9日 北稜から登頂

米、中国各17人、ソ連12人から成る三国合同平和登山隊の中国隊員として登頂。酸素は8300から使用した。当時33才。チベット出身。この合同隊では、計20人が頂上に立つという1隊あたりの最多登頂者数を記録した。(それまでの記録は、1986年ノルウェー隊の17人)。なお、この時にロシア女性として初登頂したエカテリーナ・イワノワ(27才)は、94年10月、カンチェンジュンガ登山中、遭難死した。



○ジ・ヒュンオク 池賢玉 JI HYUN-OK

韓国 KOREA

1993年5月10日、東南稜から登頂 32才

エヴェレスト初登頂から40周年を迎えたこの年、各国の女性隊、とりわけアジアの国々の女性登山家の活躍が目立った。ジ隊長率いる「93年韓国女性エヴェレスト遠征隊」もその一つで、悪天候で苦戦、何度かのアタック中止のあと、隊長以下3人の韓国女性とシェルパ4人が5月10日、頂上に立ち、韓国女性初のエヴェレスト登頂者となった。

た彼女は次のように語った。

「始めに日本の田部井さんがエヴェレストに登った事が、いかに当時の社会傾向と逆行することであったか、女性のパワーを証明することで、どれほど他の女性たちを勇気づけてくれたかを強調したい。田部井さんと今年の5月に北側から無酸素で登頂したイギリスのアリソン・ハーグリーブスさんの2人を最も優れたパイオニアと尊敬している。

84年のインド登山財団が組織したエヴェレスト隊に参加した時、7,300mの第3キャンプで深夜、雪崩に埋まった。その時、私を含めて9人が居たが、皆パニック状態となり、頂上を諦めて下りたがった。しかし、私だけは上に行きたい、と主張した。このケースを見ても女性はより弱いのではなく、精神的には強いと思う。

93年には、インド・ネパール女子合同隊を率いて再びエヴェレストに行った。隊長という煩わしい立場より、隊員としてただ登るだけの方が楽だが、次代の女性たちを引っ張っていきたくかった。

インドには今、8人のエヴェレスト女性登頂者がいる。その中には女性で唯一2度登ったサントシュ・ヤダフ、世界の女性最年少登頂者のディッキー・ドルマがいる。

「昨年は16人の女性のリーダーとしてガンジス河2,155キロのボート・ラフティングを39日がかかりでやった。」

彼女は現在、インドの大財閥タータのタータ鉄鋼社が設立した「タータ冒険財団」の役員を務めており、「これからも女性たちの活動の場を広げるために、リーダーシップを発揮してゆきたい。そのためにも、今日のような各国女性登頂者と交流の場を持たたことは嬉しかった。」と語った。

司会者から、「パルさんはヒマラヤで遭難したシェルパの子供さんを引き取って育てている、とお聞きしましたが……」との質問に、ヒマラヤ登山でお世話になったシェルパが遭難したため、その子供5人を引き取って世話している話が紹介された。子供達は女の子3人と男の子2人で11歳～18歳の年齢との事。



○レベッカ・スティーブンス REBECCA STEPHENS

イギリス GREAT BRITAIN

1993年5月17日、東南稜から登頂。当時31才。

米、カナダ、オーストラリアを含む「エベレスト初登頂40周年記念DHL英公募隊」のメンバーとして、英国女性初登頂をめざし、成功した。職業はジャーナリストで、エヴェレストの体験を著書にまとめている。



○ジネット・ハリソン GINETTE HARRISON

イギリス GREAT BRITAIN

1993年10月7日、東南稜から登頂。当時35才

英国ヒマラヤン・キングダム公募隊のメンバーとして参加。

14人から成るこの公募隊は、エヴェレスト枠で7人、隣のローツェ枠で7人の登山許可を取っていたが、全員がエヴェレストをめざしたため、2次隊の4人にはのちにネパール政府から罰金が課された。ハリソンは、1次隊だった。

サントシュ・ヤダフ (27)

世界で唯一の女性2度登頂者の彼女は、スライドを交えて自分のエヴェレスト・ヒストリーを語った。

「ハリヤナ州の暑い所で生まれたため、20歳すぎまで雪も山も見ることがなかった。1986年にウツタルカシにあるネルー登山学校のベーシック・コースに入って初めて登山の手ほどきを受けた。登山を始めた時、両親は反対した。インドでは女性が教育を受けるのは大変難しく、女性は箱入り娘である事が求められる。5人兄弟の一人娘だったため、私の母がそうであったように、私も14歳の時に結婚するように勧められた。結婚を押しつけられるのが心配で、16歳の時に家を離れ、ジャイプールの大学に入った。

89年にカシミールのクンで開催されたUIAA遠征委員会の国際キャンプに参加したのが、ヒマラヤ登山との出会いで、その後インド・チベット国境警察隊(ITBP)に入って、幾つかの登山

隊に参加した。92年のITBPによるエヴェレスト隊のメンバーに選ばれた。

私は高所に向いているのか、高所に行けば行くほど食欲が出る。93年の女性隊を含め二度登頂できたのは幸運だった。93年のサウス・コルでの別のインド隊の悲劇は、自分にとってもショックだった。

昨年5月、88年に知り合った歴史学者と結婚した。登山に理解ある人なので私自信は機会があれば三度登ってもいいと思っている。」

インドのシンデレラ・ガールの彼女は今、ジョシマート近くのITBPのスポーツ・アカデミーで教官として活躍している。

グイ・サン (37)

「解放軍の看護婦をしていた1974年に人に勧められて初めて登山を始めた。一気に7,000mまで登って大丈夫だったので、これならやれると思った。75年に登山隊員に選ばれ、チョモランマ隊にも参加したが、8,600mで足に火傷をしてしまい、



○エリザベス・ホウリー Elizabeth Hawley

米女性ジャーナリスト。長年にわたり、通信社の特派員としてカトマンズに在住。ヒマラヤ登山ウォッチャーとして、ネパール・ヒマラヤを訪れるあらゆる登山隊の情報に通じている。70代という年齢にもかかわらず、そのヒマラヤニストとの交流は活発。最近、休刊となった日本の山岳雑誌、「岩と雪」にもほとんど毎シーズン寄稿を続けてきた実績があり、日本のヒマラヤ関係者たちにも良く知られている。



○キム・スンジョ 金順珠 KIM SOON-JOO

韓国 KOREA

ジ隊長の女性隊メンバーとして1993年5月10日東南稜から登頂。当時22才南峰で、ネパール女性隊員の遺体搬出を目撃している。

登頂のチャンスを逃してしまい悔しい思いをした。90年の米中ソ三国合同隊で再びチョモランマに挑み、登頂のチャンスに恵まれた時は、15年前実現出来なかった夢を果たそうと、慎重に行動し、ついに頂上に立てた。

チョモランマに登ったことも嬉しかったが、そのお陰で今日、こうして各国の女性登頂者と会えたことは、一生忘れられない思い出です。」と語られた。

#### ジ・ヒョンオク (34)

男尊女卑の傾向の強い韓国で、女性隊長としてヒマラヤ登山隊を引率するまでの苦労話を語られた。

「韓国では儒教の伝統が強く、男尊女卑の傾向がある。1979年に大学で山岳部に入り、ロック・クライミングやアイス・クライミングの手ほどきを受けたが、男女の体力差を痛感させられた。しかもその力の差から地位の差も生じることを知った。

平凡な女性として好きな山に登りたいだけなのに、登るためにはまず女性の地位を向上させなければならなかった。

山岳部で男女混合のパーティのリーダーを務めることになった時も、やっぱり女はダメだ、と言われてぬよう頑張った。

1988年に初めての海外登山で女性だけ5人でアラスカのマッキンリーに出掛けた。出発前に90%



サヨナラパーティで女性サミッターと日本の女性登山家の大先輩達

の人が、失敗するよ、と言っていた。それが成功して帰ってくると、今度はマッキンリーは易しい山だ、と男性たちは考えるらしい。女性たちだけで成功しても女性蔑視はなくなるわけではなかった。

カンチェンジュンガ隊に参加した時は、隊員13人中女性は私一人だった。私はそれ以前にもアンナプルナ I 峰などのヒマラヤ登山の経験があったから参加したのだが、私は付録でついてゆく、という目で見える人が多かった。それで私は意識して男の人たちと同じように働くように務め、荷上げなども同じようにした。

中国の新疆ウイグル自治区にあるムスターグ・アタ登山隊では、男女混合パーティの隊長として出掛けた。男性を引き連れて隊長を務めたのは初めてであったが、多くの隊員が女の隊長で大丈夫かと心配し続けた。

そして93年のエヴェレストであるが、14人の未婚の女性を連れての隊長だったから、とにかく責任感でいっぱいだった。『登頂』よりも『全員無事下山』が私に与えられた任務であった。だから、私の場合、頂上に立った時も、嬉しさより無事に下る事ができるか、といった心配の方が強かった。」と語った。

### レベッカ・スティーブンス (33)

ジャーナリストがチョモランマの取材を通して登山に興味を持ち、やがて世界最高峰の頂を踏むようになった経緯を次のように語った。

「私は他の人のようにアルプスからヒマラヤへと段階を踏んで登山をしてきた訳ではない。

私は89年にジャーナリストとしてチョモランマに取材に行ったことがきっかけとなった。北稜から登る人たちを取材しながら、何故人はいろいろなものを犠牲にしてこのようなことをやるのかと考えた。そして、その好奇心から自分も登ってみようと思いついた訳です。

91年にキリマンジャロ、92年にマッキンリーで経験を積み、93年「DHL英公募隊」に参加した。英国の登山隊が1953年に初登頂してから丁度40年目に結果的に英国女性初登頂となって注目されたが、私としてはそれまでに頂上に立とうとした英

### ▼サヨナラパーティでは各国の歌が披露された



国女性がいなかったことに驚いた。

エヴェレストの後、七大陸の最高峰登頂に挑戦し、94年11月に南極のヴィンソン・マシーフ峰に登ってそれを果たした。」

### ジネット・ハリソン (36)

医師でもある彼女は、「学校でアウトドア活動を奨励していたので、15歳の時から自然とロック・クライミングなどを始めた。大学の医学部に進学した後、山への情熱と仕事をつなげるべく高山病の研究をテーマに選んだ。これまで高山病の研究はもっぱら男性を対象にしたものが多く、女性を対象としたものはすくなかったから。

ヒマラヤには86年にブータンのガンケル・プンスム、89年にマッシュャブルムなどに掛けた。93年の英国ヒマラヤン・キングダム公募隊では、唯一の女性隊員だったが、登山活動中に女性差別を受けたことは無かった。先程からの皆さんの話を聞いていてその点は英国に生まれて良かったと思っている。

エヴェレストの公募隊で初めて会い、一緒に登頂したアメリカ人男性が、現在の私のパートナー。私のエヴェレストは、個人的にはそういう素晴らしい場でもあった。」と語った。

彼女が高所医学の専門家と云うことで、会場から橋本しをりさんが、高所への女性の適応能力について、嗅覚異常について言及された。

### 特別講演

エリザベス・ホウリー

このシンポジウムにカトマンズから参加された

ホウリーさんは、カトマンズに33年も住み続け、ネパール・ヒマラヤの「生き字引」とも称されるほどネパール・ヒマラヤの登山記録には詳しい。

そのホウリーさんが、カトマンズから見聞してきたヒマラヤ登山史を通して女性のヒマラヤ登山を語った。

「1950年代、60年代にネパール・ヒマラヤを訪れた女性隊は、55年M. ジャクソンのジュガール・ヒマラヤと59年のクロード・コーガンの率いるチョー・オユ隊などそれぞれ2隊しかなかった。

1970年の日本エヴェレスト隊で渡部節子さんが、サウス・コルに到達したのが、当時の女性最高到達高度の記録であった。この70年代にエヴェレストの女性初登頂がなされ、70年代には4つの隊が女性に率いられ、80年代になるとそれは22隊となり、そして90年代の半ばで既に21隊が女性隊長の隊となっている。

エヴェレストは初登頂以来延べにして708人に登られている。男性576人に対して女性は32人である。男性登頂者の中にはアン・リタのように無酸素で9回も登った者もいる。

88年にリディア・ブレディがエヴェレストの女性無酸素登頂を果たしたが、80年にチョモランマでラインホルト・メスナーがなし遂げたような完全なソロ・クライムを8,000m峰でやった女性は未だ居ない。ローツェとカンチェンジュンガの8,000m峰サミッターも未だ居ない。存命中の女性クライマーで5つ以上の8,000m峰を登っている人はいない。

昨年、チョー・オユをアルパイン・スタイルで登った日本の長尾妙子、遠藤由加は素晴らしいルートを登り、特筆すべきものがある。92年にカンチェンジュンガで亡くなったポーランドのワンダ・ルトキエヴィッチは期待していただけに残念であった。女性登山家の悲劇と言えば93年にネパール女性としてエヴェレストの初登頂を果たしながら頂上からの帰途、力つきて帰らなかったパサン・ラムも気の毒であった。それでも死後のラムはネパール政界やマスコミによって聖人視され、勲章の授与、パサン・ラム登山学校の設定、記念切手の発行など数々の栄誉が与えられた。

将来の展望として、スイスのロレタンはアルパ

イン・スタイルでローツェからローツェシャルの縦走を計画しているが、果たしてこのようなプランを企てるような女性は現れるであろうか。

今年の5月13日にチョモランマの北面からアンサポーテッド・クライムを単独で達成した英国女性のアリソン・ハーグリーブス(33)は、自分はソロ・クライムとは思っていない。何故なら周囲には250名もの登山者が居たのだから、と言う。しかし、彼女は第2ステップの梯子は使わせて貰ったものの、他のパーティからお茶を勧められても固辞したほど、他パーティからの一切のサポートを断わって登った。8,300mにテントを残し、8,500mではシュラフ無しでビバークし、13日無風快晴の中、4時40分にビバーク地を出発。フットウォーマーの予備電池だけを持って頂上に向かい、12時8分に登頂した。頂上から愛するトムとケイの二人の子供にメッセージを送り、翌日、ABCに下降した。彼女は女性のヒマラヤ登山に新しい前例を作った。」と語られた。

\*

以上で朝10時から開催されたシンポジウムの日程は終了し、ティーパーティの後、車で富士山に向かった。

翌25日、遠来の女性サミッターを富士山も歓迎してか、懸念された天候も梅雨の晴れ間となり、感激の富士登山となった。

(文責：尾形好雄)



▲富士登山のガイ・サン(右)と  
パンドゥ(その隣り)さん

### Women a top Everest

	Name	Nation	Route	Date of Birth	Summit Date	Age	Remarks
1	Junko Tabei	Japan	S Col	22/9/39	16/5/75	35	
2	Phantog	China	N Col; N ridge	/ /39	27/5/75	37	
3	Wanda Rutkiewicz	Poland	S Col	4/2/43	16/10/78	35	died 5/92 on Kangch
4	Hannelore Schmatz	W Germany	S Col	16/2/40	2/10/79	39	died in descent
5	Bachendri Pal	India	S Col	25/4/54	23/5/84	30	
6	Sharon Wood	Canada	W ridge from N	18/5/57	20/5/86	29	
7	Stacy allison	U.S.	S Col	18/10/58	29/9/88	29	
8	Peggy Luce	U.S	S Col	16/12/58	2/10/88	29	
9	Lydia Bradey	N.Z	S Col	9/10/61	14/10/88	27	Used no Oxygen
10	Gui Sang	Cnina	N Col N ridge	5/10/56	9/5/90	33	
11	Ekaterina Ivanova	USSR	N Col N ridge	1/4/62	10/5/90	27	died 10/94 on Kangch
12	Christine Janin	France	S Col	14/3/57	5/10/90	33	
13	Mariya Stremfeli	Yugoslavia	S Col	25/6/57	7/10/90	33	to summit with husband
14	Catherine Gibson	U.S	S Col	26/1/55	7/10/90	35	to summit with husband
15	Ingrid Baeyens	Belgium	S Col	8/1/56	12/5/92	36	
16	Santosh Yaday	Indea	S Col	10/10/67	12/5/92 10/5/93	24 25	1st woman to summit twice
17	Pasang Lhamu Sherpa	Nepal	S Col	10/12/62	22/4/93	30	died in descent
18	Kim Soon-Joo	S Korea	S Col	10/8/70	10/5/93	22	
19	Ji Hyun-ok	S Korea	S Col	20/1/61	10/5/93	32	
20	Choi Oh-Soon	S Korea	S Col	4/5/69	10/5/93	24	
21	Dicky Dolma	India	S Col	5/4/74	10/5/93	19	
22	Dolly Lefever	U.S	S Col	19/4/46	10/5/93	47	
23	Jan Arnold	U.S	S Col	28/9/63	10/5/93	29	to summit same day as husband
24	Kunga Bhutia	India	S Col	1/10/72	10/5/93	20	
25	Radha Devi Thakur	India	S Col	10/8/73	16/5/93	19	
26	Deepu Sharma	India	S Col	14/3/71	16/5/93	22	
27	Savita Martolia	India	S Col	4/3/69	16/5/93	24	
28	Suman Kutiyal	India	S Col	2/9/69	16/5/93	23	
29	Rebecca Stephens	U.K	S Col	3/10/61	17/5/93	31	
30	Ginette Harrison	U.K	S Col	28/2/58	7/10/93	35	
31	Jiang Xiu Zhen	Formosa	Nridge	10/2/71	12/5/95	24	
32	A. J. Hargreaves	U.K	Nridge		13/5/95	33	

日本女性による8,000m峰の登頂者  
(1995年3月31日現在)

山森欣一氏調べ

番号	登頂者名	山名	登頂年月日	登頂年齢	隊長	派遣母体	数字は8千m峰の登頂回数
1	中世古直子	マナスル	1974. 5. 4	36	黒石 恒	同人ユングフラウ	女性八千米初登頂
2	内田昌子	マナスル	1974. 5. 4	33	黒石 恒	同人ユングフラウ	女性八千米初登頂
3	森 美枝子	マナスル	1974. 5. 4	32	黒石 恒	同人ユングフラウ	女性八千米初登頂
4	田部井 淳子	エヴェレスト	1975. 5. 16	35	宮崎 英子	女子登攀クラブ	①女性初登頂
5	田部井 淳子	シシャパンマM	1981. 4. 30	41	田部井淳子	女子登攀クラブ	②
6	高橋 通子	チョー・オユー	1987. 9. 22	45	高橋 通子	カモシカ同人	
7	松元 サチ	ブロード・ピークM	1988. 6. 27	32	酒井 国光	昭和山岳会	
8	遠藤 由加	ナンガ・パルパット	1988. 7. 12	22	遠藤 晴行	高山研究所	①
9	橋本 しをり	ガッシャーブルムⅡ	1988. 8. 8	35	橋本しをり	女子登攀クラブ	
10	東條 真百合	ガッシャーブルムⅡ	1988. 8. 8	33	橋本しをり	女子登攀クラブ	①旧姓安原
11	柳沢 伸子	ガッシャーブルムⅡ	1988. 8. 8	37	橋本しをり	女子登攀クラブ	
12	北川 みはる	ガッシャーブルムⅡ	1988. 8. 8	39	橋本しをり	女子登攀クラブ	死亡
13	吉田 文江	ガッシャーブルムⅡ	1988. 8. 8	32	橋本しをり	女子登攀クラブ	①旧姓木村
14	遠藤 由加	ガッシャーブルムⅠ	1989. 8. 12	23	遠藤 晴行	高山研究所	②
15	白沢 あずみ	シシャパンマC	1990. 5. 17	23	戸部 隆吉	京都学士山岳会	
16	遠藤 由加	ガッシャーブルムⅡ	1990. 7. 26	24	遠藤 晴行	高山研究所	③
17	東條 真百合	ダウラギリⅠ	1990. 10. 9	35	東條真百合	女子登攀クラブ	②旧姓安原
18	吉田 文江	ダウラギリⅠ	1990. 10. 9	34	東條真百合	女子登攀クラブ	②旧姓木村
19	渡辺 玉枝	チョー・オユー	1991. 9. 28	52	神崎 忠男	シルバートール	①
20	長尾 妙子	ブロード・ピークM	1991. 7. 30	35	川嶋 保幸	パイネニアソブ	①
21	長尾 妙子	マカルー	1991. 10. 7	35	今村 裕隆	ベルニナ山岳会	②無酸素
22	池上 由紀	チョー・オユー	1992. 9. 21	32	八橋 秀樹	カトマンズクラブ	旧姓佐藤
23	長尾 妙子	ガッシャーブルムⅡ	1993. 7. 31	37	小西 浩文	パイネニアソブ	③
24	吉田 文江	チョー・オユー	1993. 10. 12	38	八木原聡明	群馬県山岳連盟	③
25	長尾 妙子	チョー・オユー	1994. 9. 25	38	長尾 妙子		④南西壁アルパイン.S
26	遠藤 由加	チョー・オユー	1994. 9. 25	28	長尾 妙子		④南西壁アルパイン.S
27	渡辺 玉枝	ダウラギリⅠ	1994. 10. 1	54	石川 富康	シルバートール	②

## 地域ニュース

### 《中国》

#### 大洪水で10省が被災

中国の長江流域で6月末から大規模な洪水が発生し、政府の調査では湖南、江西両省を中心に10省の約560万人が被災し、1200人近くがこれまでに亡くなった。米の生産量が全国最大の湖南省はじめ米どころの水害が深刻で、物価安定のかなめである食糧生産への影響も懸念されている。

中国政府は農業担当の姜春雲副首相を被災地に派遣、住民の慰問のほか、農業への影響を食い止めようと必死でハッパをかけている。

中国では昨年、大河流域は洪水、その他の地域は干ばつに見舞われ、食糧が減産した。このため中国からの食糧に頼っていた朝鮮民主主義人民共和国への輸出も激減した。

長江の水位上昇は、春先から気がかりのタネだった。気象関係者は「上流のチベットや青海高原の雪解け量が増している」ことを予測していた。

農民や政府にとって頭が痛いのは、今年も北部では干ばつ被害が発生していることだ。中国政府は7月10日、「夏の収穫量は順調だ」と国営新華社通信を通じて発表した。天災の先行き次第で食糧生産にもっと大きな影響が出かねない。

### 《インド》

#### 熱波相次ぎ600人死亡

インド北東部アッサム地方で、7月に入ってブラマプトラ河がはんらん、大洪水に見舞われて100万人以上の住民が水害に遭うなどの被害が出ている。

一方で、インド中西部や首都ニューデリーを含む北西部は、通常6月末にモンスーンが来て雨をもたらすのに、ことしは例年より10日以上も遅れるという異常気象。

このため、もともと暑いニューデリーでも、40年ぶりの酷暑となった。6月下旬には、日中の気

温は47度から48度を記録。砂漠地帯の多いラジャスタン州などでは、連日熱波が襲い、6月末までにインド全体で約600人の死者が出た。水道の蛇口をひねると、日本の風呂なみの熱い湯が出てくる。

さらに、あまりの暑さに首都の市民が一斉にクーラー、扇風機を使うため、停電が頻発し、まるで炎熱地獄のような室内で、ただ電気がよみがえるのを待つのみ、といった有り様が連日続いている。

インドは、5月6月が夏季休暇なので、経済的にゆとりのある中産階級以上の人は、涼しい地域に避暑旅行もできるが、学校が7月上旬から始まるため、首都に戻ってきた人たちはあまりの暑さに閉口している。

ニューデリーっ子は、涼しい雨をもたらすモンスーンがやってくるのを、今日か、明日かと首を長くして待っている。

#### トレッキング・ピークにも 登山ビザの適用

7月6日付、インド登山財団（IMF）からの連絡によると、インド・ヒマラヤを訪れる全ての外国登山隊は、“X”登山ビザを取得の上、入国するように、との事である。これまでは観光ビザで良しとされてきたストック・カンリなどのトレッキング・ピークに向かう登山隊もこの登山ビザを取得するようにとの事である。

これ迄、日本隊は煩しいこのビザを取得したが、欧米の登山隊のほとんどは観光ビザで登山しており、欧米人にも徹底しようとする措置のように思われる。

#### サントシュ・ヤダフ、大賞を受賞

エヴェレストを2度登ったインドの女性エヴェレスト・サミッター、サントシュ・ヤダフ（27）さんは、今年2月にチャンディガールで開催された第1回オール・インド・アドヴェンチャー・ジャンボリー大会の最終日に「バタト・ゴウラプ賞」を受賞した。賞状、記念品の他賞金11,000ルピーが贈られた。

## ヌブラ谷へのフライト

インド国内航空は、ジャム〜レー間のフライトを現在の週1便から2便に増便することを発表した。

また、今年中にヌブラ谷へのフライトも予定していることを紹介された。

ヌブラ谷は、東部カラコルムのシアチェン氷河の下流域で、シャイヨーク河畔には軍の飛行場がある。

また、アクサイチンの中印国境にまたがる世界で第3位の長さを誇るパンゴン湖へレーからのヘリコプター・サービスも今夏計画されていると云われる。

イスラム・ゲリラが外国人観光客誘拐  
カシミール

イスラム教徒が反政府武装闘争を展開するインド北部ジャム・カシミール州で米国、英国など計8人の観光客が誘拐され、うち4人が解放されていたことが7月7日、明らかになった。

8人は5日、スリナガル南100キロのバルガムを通行中、武装集団に連れ去られた。パキスタンの支援を受けているとされるゲリラ組織「アル・フラン」が犯行を声明。インド治安部隊に逮捕されているパキスタン系ゲリラ21人の釈放を要求した。イスラム・ゲリラが外国人観光客を誘拐するのは極めて異例である。

米国は7日、インド政府に事件の早期解決を要求した。

## 《パキスタン》

## ティリチ・ミール全員登頂

ヒンズー・クシュのティリチ・ミール(7,708m)に出かけていた日本ヒンズー・クシュ登山隊(野沢井歩隊長ら3名)は、7月7日に3名全員が登頂に成功した。登頂したのは野沢井隊長のほか岩崎洋、今村裕隆の両隊員。同隊は14日にBC入りした後、17日にC1、21日にC2と進め、27日にディル・ゴル・ゾム(6,770m)に登頂した

後、28日にC3を建設。その後、4日間休養した後、7月7日に登頂した。

## ヒマラヤから

## キンヤン便り

サラマレコーン

6月15日パサーに到着。20日にはキャラバン・スタートの予定です。5月中旬〜下旬は天候が不順で雪線が約2ヶ月分低いと云われています。

しかし、6月に入ってから天候が安定し、ここ2週間ずっと快晴です。出発間際までいろいろとお手数をおかけしましたが、全身体調も良好でこのまま登山活動にこぎつけたいものだと思っています。

安全第一を頭の片隅に置き、何とか頑張りたいものです。

いろいろと有難うございました。8月末には成否の報が伝わることと思います。

HAJキンヤン・キッシュ登山隊々員一同

(’95. 6. 17、パサーにて)

## ヒンズークシュ通り

アッサラーム!

皆様いかがお過しでしょうか、私達は6月4日にイスラマを出ました。ロワライ峠の道は悪く、時間がかかった上、なんとワゴンの荷がキャリアごとぶっとんでしまいました。チトラルに着いたのは夜中の2時です。

6月7日チトラルを出発し、シャグラムまでジープで向かいました。この道も悪くシャグラムの手前の村までしか行くことができず、ポーターを使ってシャグラムまで荷を運びました。シャグラムからザニパスへ登り、4,400mまで登って順化トレーニングを行ないました。

6月12日にキャラバンをスタートしました。天気は連日快晴で今年は多いと云われた雪もみるみる解けてゆきます。6月14日にBC入り、いよいよ登山開始です。

6月13日、ショゴロベースンにて

日本ヒンズークシュ登山隊一同

アッサラーム アレイコム、

御無沙汰致してます。如何お過しでしょうか？  
我々はピンボーにも負けず、がんばってルートを  
のぼしております。

6月24日現在6,300m。明日から4泊で6,800m  
迄。登頂は7月7日頃の予定です。天気も良く、  
雪のコンディションも良いので順応さえうまく行  
けば頂上は我々のものに……なると良いですが、  
それではまた。

24Jun, 1995 BCにて 岩崎

## BOOKS

### 『ルンポ・カンリ』チベットの 未踏峰7,095m 1994年試登の記録

チベットのカンティセ山脈の最高峰ルンポ・カ  
ンリは地球上に残された数少ない7,000mの未踏  
峰の一つである。1994年にこの未踏峰に挑んだH  
AJ隊の記録。

登頂を断念した後、聖山カン・リンポチュの巡  
礼に出かけた報告も有り。

B5判 50頁 領価2,000円(送料240円)

### 葱嶺の白き父なる山 ムスターグ・アタ登頂の記録

1993年夏、HAJのサマー・キャンプの一環と  
して実施したムスターグ・アタ登山は、酒井隊長  
のリードよろしく、8月17日と18日の両日にわた  
って11名全員が頂上に立った。その報告書である。

第1部 登山報告、第2部 隊員の横顔・随想、  
第3部 隊務報告・資料の3部からなる。

B5判 98頁 カラー5頁 領価2,000円(送  
料310円)

### 中国登山運動史

武漢出版社刊

国家体委体育文史工作委员会と中国登山協会の  
共編による中国の登山運動史。

古代の登山史から近代登山史まで、ヒマラヤの  
高峰登山から岩登り競技まで中国登山の総てが網  
羅されている。他に高山科学考察や中国人登頂者

一覧、登山史年表などもまとめられている。但し、  
全文中国文である。在庫は8冊のみ。

14×20.0cm判 410頁 カラー12頁、モノクロ  
8頁 領価2,000円(送料310円)

\*上記3冊の申込みは、HAJ事務局へ

## インフォメーション

### 8月の東京集会

8月の東京集会は下記の通り開催します。ティ  
リチ・ミール、キンヤン・キッシュ、ヌンなどへ  
出かけていた仲間達が顔を揃えます。是非お出か  
け下さい。

日時 8月28日(月)19時～

場所 HAJルーム(地下鉄東池袋駅下車)

### プラチャング氏の日本での肝臓手術に あたたかいご支援をお願いします。

長らくネパール観光省の登山セクションを担当  
されていたプラチャング・マン・シュレスタ氏が、  
昨年の秋以来、肝臓疾患で体調を崩し、現在激務  
の観光省観光局長の要職にあって医師から早急な  
手術の診断が出されています。

そのためこの8月下旬に近畿大学医学部泌尿器  
科の栗田教授の執刀で手術を行うことになりました。

大の親日家で、流暢な日本語でネパール・ヒマ  
ラヤをめざす日本の登山者に親切にサポートして  
頂いた氏に一人でも多くの方々のご支援をお願い  
します。

〈振込口座〉郵便振替 01180-9-66354

プランチャング支援基金

### 会員納入のお願い

本会の年会費は前金制になっております。平成  
7年度分の年会費8,000円を未納の方は、早急に  
お振り込み下さい。

尚、事務局では終身会員への移行を奨励して  
おります。

郵便振替番号：001006-48954

口座名：日本ヒマラヤ協会

## その2 ダルチャからパダム

### マナリからレーへ

推奨期間：7月下旬から8月中旬

概算費用：約1550ドル

参考日程：デリー発、デリー帰着。19日間

第1日：デリー滞在

デリーで出発準備。その日はデリーのホテル泊。

第2日：デリーからマナリへ（空路と車）

早朝にデリーを空路で出発し、チャンディガール（Chandigarh）着。チャンディガールを車で出発し、途中で昼食をとり、約350kmを走って、マナリ（1920m）に午後着。マナリのホテル泊。

第3日：マナリ滞在

午前中は自由行動、午後はマナリの半日観光を楽しむ。マナリはイギリス統治時代に発展した高原リゾート地で、ヒマラヤ杉の森林やリンゴの果樹園があり、川では魚釣りも楽しめる。マナリではロッジ風のホテルに泊まる。

第4日：マナリからダルチャ（車）

マナリを車で出発し、ロータン峠を越えて、約140km走って標高3360mのダルチャ（Darcha）に着く。テント泊。

第5日：ダルチャからパラモ（トレック）

ダルチャから容易なコースをたどり、だんだんと高度を上げ、標高約3580mのパラモ（Palamo）に着く。約12kmのトレッキングである。テント泊。

第6日：パラモからザンスカールのスムドウへ（トレック）

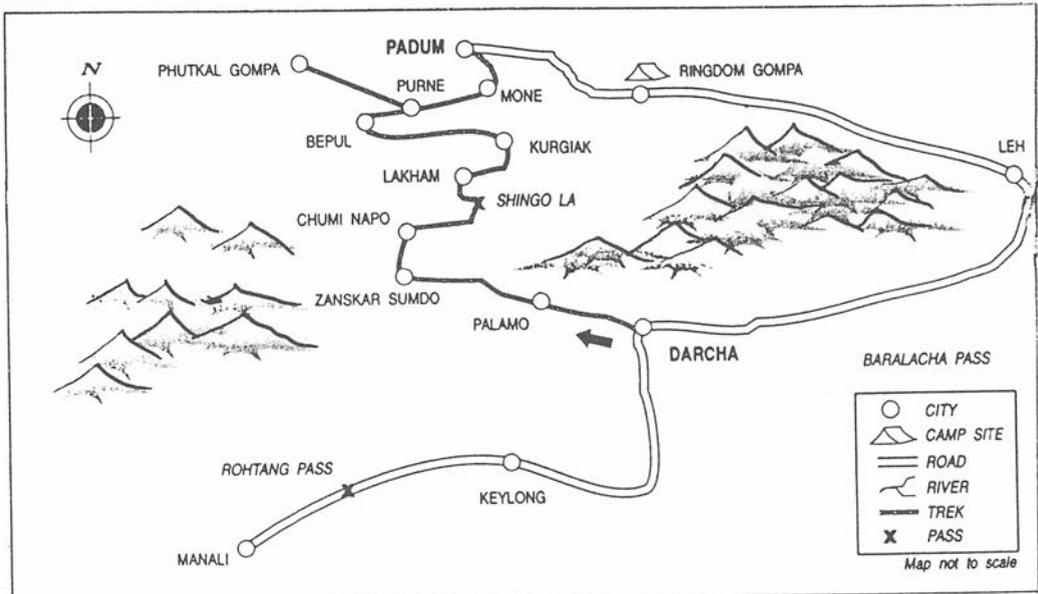
パラモから14kmのトレッキングでザンスカール（Zanskar）のスムドウ（Sumdo）へ向かう。容易なコースであるが、最後に川をロープにかかった籠に乗って渡る。渡ったところがスムドウである。スムドウの標高は約3750mである。テント泊。

第7日：ザンスカールのスムドウからチュミ・ナポへ（トレック）

スムドウのキャンプ地からすぐに急な登りを14km歩いてチュミ・ナポ（Chumi Napo）へ向かう。チュミ・ナポの標高は約4060mである。チュミ・ナポではテント泊。

第8日：チュミ・ナポからシンゴー・ラを經由してラカムへ（トレック）

この日のコースは距離が長い。チュミ・ナポから16km歩いてシンゴー・ラ（Shingo La）に着く。標高は約4100mある。峠への登りは困難ではない



が峠からの下りは急である。ラカム (Lakham) に着いてテントに泊まる。

第9日：ラカムからクウルギアクへ (トレック)

ラカムから約14kmのトレッキングでクウルギアク (Kurgiak) へ達しられるが、ザンスカールとは違った山々の風景となる。クウルギアクでテント泊。

第10日：クウルギアクからベプルへ (トレック)

クウルギアクから14kmのトレッキングでベプル (Bepul) へ着き、テント泊。

第11日：ベプルからプルニへ (トレック)

ベプルから約14kmのトレッキングで標高約3700mのプルニ (Purni) へ着き、テント泊。

第12日：プルニからプトカール・ゴンパを往復 (トレック)

プルニからラダックで最も印象深いといわれるプトカール・ゴンパ (Phutkal Gompa) を訪ねる。プルニから片道約14kmのトレッキングである。

往路をプルニに戻ってテント泊。

第13日：プルニからムネへ (トレック)

プルニから約12kmのトレッキングでムネ (Mune) に着く。標高は約3650mである。テント泊。

第14日：ムネからパダムへ (トレック)

ムネから約12kmのトレッキングで、かつてのラダックの首都であったパダム (Padum) に着く。標高は約3560mである。テント泊。

第15日：パダムからリンドン・ゴンパへ (車)

パダムからリンドン・ゴンパ (Ringdom Gompa) までは約140kmのドライブである。テントを設営した後、古いゴンパを訪ねる。ゴンパの標高は約4100mである。テント泊。

第16日：リンドン・ゴンパからカルギルへ (車)

リンドン・ゴンパを出発するとやがてスル川のほとりにでる。このあたりから雪に輝くピラミッドのようなヌンの北面が見える。クンの三角形のピークも見えかくれする。パルカチック氷河もすぐそばに見える。

リンドン・ゴンパからカルギル (Kargil) までは約160kmのドライブである。カルギルの標高は約3700mである。ホテル泊。

第17日：カルギルからレーへ (車)

カルギルからレーへ (Leh) へ約250kmを車で

走る。途中は標高4000mの高地のチベットの風景である。レーではホテルに泊まる。

第18日：レー滞在

レーの市内観光や、近くにあるシェイ・ゴンパ (Shey Gompa)、ティクセイ・ゴンパ (Thiksey Gompa)、旧王宮、バザールを訪ねて一日を楽しむ。ホテル泊。

第19日：レーからデリーへ (空路)

午前にレーを出発するインド国内航空便でデリーに着く。

(編・著 沖允人)



▲ヌン峰 (7135m) の北面とパルカチック氷河

## その3 ダルムサラ周辺

### ダルムサラからマナリ

推奨期間：8月初旬から9月中旬

概算費用：約1440ドル

参考日程：デリー発、デリー帰着。13日間

第1日：デリー滞在

デリーで出発準備。その夜はデリーのホテルに泊まる。

第2日：デリーからチャンディガール経由ダルムサラへ（空路と車）

早朝にデリーを空路で出発し、チャンディガール（Chandigarh）に到着。

チャンディガールを車で出発し、途中で昼食をとり、約320km走ってダルムサラ（Dharamsala）へ着く。ダルムサラの標高は約1250mである。ホテル泊。

第3日：ダルムサラ滞在

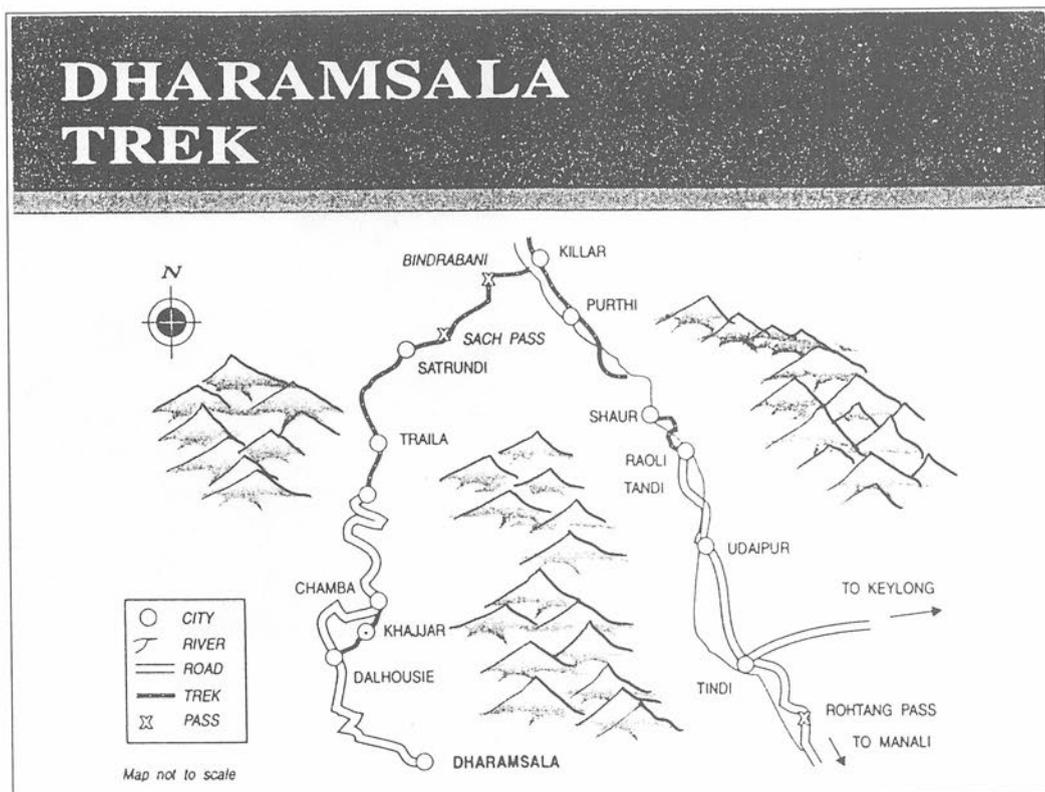
午前中は自由行動とし、午後ダルムサラの町を車を使用して観光する。

ダルムサラは標高の高いところと低いところに分かれている。したがって標高はおよそ1250mから2000mにまたがる。

ダルムサラの高いところにある町のマックレド・ガンジ（McLeod Ganj）という所に聖者ダライ・ラマが住んでいる。また、チベットからの亡命者が多く住んでおり、昔ながらの文化を保っている。したがって、チベットの生活と風俗が見られ、「リトル・ラサ」と呼ばれることもあるくらいである。

ダルムラサの標高は1730mである。ダルムサラではホテルに泊まる。

第4日：ダルムラサからチャンバへ（車）



朝食後、車でチャンバへ向かう。ダルムサラからチャンバ (Chamba) まで約270kmある。チャンバはヒマチャール州の西の端にあり、北にはチェナブ川が流れており、南にはラヴィ川が流れている。町に中心にはチョウガン (Chaowgan) という名前の広場があり、緑の草原になっている。この草原は、長さ805m、幅73mもの広さがある。

チャンバの町で興味深いものは、いろいろな彫刻のほどこされているお寺である。

チャンバではツーリストバンガローに泊まる。  
第5日：チャンバからトライラへ (車)

チャンバから約145km車で走り、車道の無くなるトライラ (Traila) まで進む。トライラの標高は約2500mである。

チャンバを出発するとパンギ峡谷に入る。ここは美人が多く、楽しいダンスと美しい景色が楽しめる場所である。パンギ峡谷とその周辺には、パンワラ (Pangwala) とボーテ (Bhots) と呼ばれる昔からの住人が住んでいる。ツーリストバンガローに泊まる。

第6日：トライラからサトルンディへ  
(トレック)

トレッキングの第1日目である。朝食後、出発し、途中、パノディ (Bhanodi) の村を通り、森の中を通過する。上ったり下だったりの道を15kmほど歩き、サトルンディへ着く。サトルンディの標高は2900mである。テント泊

第7日：サトルンディからサチ峠を越えて  
ピンドラバニへ (トレック)

サトルンディから5kmほど急な登りが続き、サチ峠 (Sach Pass) に達する。標高約4500mのこの峠からの眺めは抜群である。雪や岩の沢山の山々を望み見える。峠を下って行くと長さ約2kmある氷河を横断する。やがてピンドラバニ (Bindrabani) に着く。テント泊。

第8日：ピンドラバニからキラールへ (トレック)

キラールへ道はチェナブ川の深いゴルジュの中を通る。岩壁が両側から迫ってくるようである。

ピンドラバニからキラールまでは約11kmあり、キラールからはキシトワール (Kishtwar) 地方、ウマシ・ラ (Umasi La) の峠を越えてザンスカール地方やケイロンからマナリへなどのいろいろな

トレッキング・コースがある。

キラールの標高は約2400mである。テント泊。

第9日：キラールからプルティへ (トレック)

キラールから約8kmほど歩くと道は東に向かうようになる。キラールからプルティまで約24kmある。

プルティ (Purthi) には、森の中に保養所があり、チャンドラ・バガ (Chandra Bhaga) 川の右岸には歴史のあるレスト・ハウスがあったりする美しい街である。テント泊。

第10日：プルティからラロリへ (トレック)

プルティからラロリ (Raoli) へは緩やかな上り下りの道が続いている。プルティから約14km歩くと標高約2000mのラロリへ到着する。テント泊。

第11日：ラロリからマナリへ (車)

早めに朝食を済ませ、車でマナリへ向かう。途中のケイロンあたりで昼食をとる。夕方にはマナリに着き、ホテル泊。

第12日：マナリ (滞在)

マナリの街や近くのヒンディムバ寺院 (Hidimba Temple) を訪問したり、温泉を楽しんだりして一日を過ごす。リンゴなどの果物も豊富である。マナリではロジ風のホテルに泊まる。

第13日：マナリからクル経由でデリーへ  
(車と空路)

マナリからクルまで車で移動し、クル (Kulu) からインド国内航空でデリーに到着する。急ぐ旅なら、その日の夜行の国際便に乗り継ぐことができる。

(編・著 沖允人)



チトラルのブルハーン殿下(一九九二年)

# チトラールのブルハーン殿下逝く

雁部貞夫（日本山岳会会員）

パキスタン北西辺境の首都ペシャーワルで弁護士をしている友人のカリッド・ハーン氏からの手紙によれば、7月6日の午後、チトラールのブルハーン殿下（Shazada Burhan ud-din）が鉄砲による事故のために、急逝されたという。この手紙は7月13日に届いたものであるが、地元の英字紙学校の切抜きが同封されていた。

カリッド氏の手紙の文面を始めて目にした時は、余りの突然の知らせをにわかに信じる気持ちになれなかったが、この切抜きを読むに及んで、ブルハーンさんの死を信じないわけには行かなくなった。おおよそ次のような内容である。

「（前文略）殿下はかつてのチトラールの支配者（注、メータ＝大守）の一族であり（父は有名なシュジャ・ウル・ムルク）、チトラールの居宅で銃の手入れをしていた際に暴発、重傷を負い、病院へ運ばれる前に絶命された。殿下は通称コマンドー・チーフ（注、かつてチトラール・スカウトの司令官＝大佐であった）として親しまれていた。前観光省大臣シャーザダ・ムヒ・ウッディーン氏の伯父にあたる。

殿下は印度国民軍に参加していた経歴があったため、ある期間不利益をこうむっていたが、後に故郷チトラールへ帰ってから政治活動に身を投じた。チトラールの勇士として、彼は人気の高い機智に富む人だった。……（後略）」

文末にあるように、ブルハーン氏はここ十数年チトラール選出の国会議員（セネター）として活躍され、特に、ソ連のアフガン支配の末期には、チトラールの戦略的、政治的重要性もあって、氏の動向は注目的であった。7年前に私がチトラールを訪れた際、いわゆるムジャヒディンの大部隊が氏の私有地に幕営し、バザールには騎兵隊がかっぱしていた。しかし、3年前に氏の居館のあるチトラール郊外のドロムツの高台を訪れた時には、その部隊は全て、アフガンへ移動していた。

私がブルハーン氏と知り合ったのは、今から30年前の1966年夏のことだった。その前年にチトラールへ入ったM・シュムックがペシャーワルから空路が開設されていることを報じていたのを知り、当時、国交回復以前の中国経由でパキスタンへ入った。PIAは未だ広州までしか路線がなかったためである。もちろん、パキスタンでは一般の日本人に出会うことは無かった。

出国する時に、PIA東京支社（開設準備中だった）から、チトラール空港のオーナー宛紹介状（但し、その氏名はわかっていなかった）を持参していたので、チトラールへ着くとすぐ、にこやかに迎えてくれた恰幅のいい大人の風貌を持つチトラール人に、その書状を示した。聞けばこの空港のオーナーで、戦時中はチャンドラ・ボースの印度国民軍に加わっていた由。山へ行く迄、屋敷へ滞在すればよいとのことで、私と相棒の二人はチトラール郊外の高台にあるこの人の館で居候を決め込むことになる。これが私とブルハーン氏との出会い的一幕であった。この時は、サラグラール（7349m）とブニ・ゾム（6551m）のふた山を一挙に偵察し、本邦に於ける東部ヒンズー・クシュ登山の幕開けとなった。ブルハーン氏のゲスト・ハウスには数冊の訪客帳があるが、その第一項に我々二人の名を記すこととなる。この名簿にはその後千人以上の日本人が記名していて、チトラールに於ける日本人の動向を知る上で、貴重な資料となっている。氏の後継者のお孫さんもすでに20数歳。氏の残された任を立派に果されるであろうが、10シーズン以上もブルハーン氏の許で過したオアシスの旅の思い出は、私にとって何物にもかえがたい宝物である。

（編注）P19に殿下の絵が掲載されていますが、1992年夏に岩切岑泰画伯（日本山岳画協会）が描かれたものです。

## 1-7 ムスターグ・アタ(慕士塔格山・Muztag Ata) その2

1993年

7月～8月 西稜 日本ヒマラヤ協会

8月1日BC設営。16日6850mにC3を設営。翌日西嶋、高橋、志小田、中島、伊藤の5名が登頂。7時間50分を要して登頂。18日には残る6名も約8時間で登頂したが、帰路7100mでピバークとなった。

[隊長：酒井国光(54) 西嶋鍊太郎(50) 樋上嘉秀(49) 天城敏彦(46) 谷田川武(39) 金森博之(39) 高橋敏雄(34) 志小田美弘(34) 池上邦彦(32) 中島俊弥(28) 伊藤英世(26)]

[ムスターグ・アタ全員登頂 「ヒマラヤ266号」]

[葱嶺の白き父なる山 (1995年5月刊)]

7月～8月 西稜 北京大学隊

8月12日に5名、13日にも5名が登頂した。

7月～8月 西稜

HAJと同時期にニュージーランド、フランス、イタリア、スペイン隊が入山。

1994年

7月～8月 西稜 日本ヒマラヤ協会

7月29日BC設営。8月16日C3を6850mに設営。18日飛田、田村、小林が8時間で登頂。翌19日には残る4名も7時間半で登頂した。

[隊長：飛田和夫(48) 関根幸次(60) 田村正勝(52) 大久保博(45) 泉田清幸(46) 日南長二郎(39) 小林剛(20)]

[ムスターグ・アタ全員登頂 「ヒマラヤ278号」]

7月～8月 西稜 京都山岳会

宮川清明隊長らが入山。7月26日に隊長ら2名登頂。

7月～8月 西稜 神奈川教員隊

7月25日BC設営。8月6日C3を6700mに設営。スキーを使用して、7日に我妻、河内、志村、両角の4名、8日に阿部、燕昇司の2名が登頂した。

[隊長：我妻研(52) 我妻伊津子 河内勲 志村重治 両角繁(34) 阿部八男 燕昇司実(49)]

7月～8月 西稜 IMC国際隊

7月15日BC設営。6850mにC3を設営。27日隊長がスキーを使用して1日で登頂し(14H) 滑降(3H)。28日イザベル・マイヤーが登頂。30日ライナー、エリザベート、ラインハルト、ゴルトベルガーの4名が登頂した。

[隊長：ペーター・コヴァルツィーク(26) イザベル・マイヤー、ライナー・ロイター、エリザベート・ヴァルジッシュ、ラインハルト・ヴァルジッシュ、カルル・ゴルトベルガーら10名]

7月～8月 西稜

HAJ隊と同時期に入山したのは、オーストリア(15名) フランス(8名) スエーデン(6名) ドイツ(4名) ドイツ(7名) オーストリア(8名) スペイン(10名) スペイン(15名) などである。

## ■ 北峰(7184m)

1894年

4月 西稜 スウェン・ヘディン

スバシからヤムブラク氷河に入り、西稜に取りつく。17日5334m上まで到達したところで断念した。

1900年

7月 西稜 オーレル・スタイン

ヘディンと同じルートに取りつき、19日6100mまで到達した。尚、前日にフンザ人がそれより上まで到達している。

1981年

7月～8月 北西稜 川崎教員隊

7月28日4800mにBC設営。8月1日北西稜に取りつき5630m地点をC1とする。6日6280m地点にC2設営。翌日上部で西稜に出て、隊長と松井が初登頂に成功した。14日に

林田と高橋も登頂した。

[隊長：坂原忠清(36) 林田孝夫(35) 松井公治(31) 高橋純一(31)]

[シルクロードの白き神へ「スピダーニェ同人」(1982年刊)]

[ムスターグ・アタ北峰(坂原忠清)「山岳第七十七年(1982年12月刊)」]

1987年

7月～8月 西稜 国際隊

マイクル・ジャーディンを隊長とする5ヶ国

からなる国際隊が南北両峰の登頂を目指して入山し、7月21日から北峰を目指したものの悪天続きで6130mで北峰を断念した。

9月 チョドマク氷河 オーストリア隊 スキーを使用してチョドマク氷河をつめ、ヤムブラク氷河と出合う付近から、北峰を目指し全員が登頂した。

[隊長：ブルーノ・パウマン、ホルスト・シンドルバッヒャー、ハンス・ザウゼンク、トーマス・ホイス、マンフート・ヴィドラ]

## 1-8 コクセル(科克色热・Koksel)

\*山脈：パミール山脈・コングール山群

\*位置：コングール(7719m)の南南西約6.5km。

\*アプローチ：カシュガルまでは飛行機で2時間の旅。通常のBCまでは、名勝地「小カラクリ湖」までジープで半日である。ここからラクダとなり、コンシバー川の対岸に渡り、コク・セル氷河(ジャンマンジャール氷河)右岸標高約4400m-4500m付近のBC地まで一日で到達できるが、各氷河からの増水の状況で多少変化する。なおBC地は1981年イギリス隊のBC地と同じである。

\*ルートの所要日数：93年山形大学隊は、BC設営後3つのキャンプを出し16日目に登頂。

\*山の概念：主峰(6705mまたは6715m)は、北にあるコクセル・コル(5660mまたは5,840m)を挟んでコングール主峰南稜に続く。南には、6059mのコルを挟んでカジセル(6525m)がある。

\*通常の登山期間：6月～8月の夏期。

\*山名：キルギス語で「蒼い川の流れ」の意。

\*小史：コクセル・コルまでは1956年の中ソ合同登山隊以来多くの隊が到達しているが、登山の記録としては山形大学隊が初めて。

\*参考文献：K o b o l d コクセル峰初登頂特集(平成6年4月刊)

### 登山の概要

#### ■ 主峰(6705m)

1993年

7月～8月 北西稜 山形大学

8月1日イギリス隊と同じ場所にBCを設営。15日5900m地点にC3設営。翌16日佐藤俊一、古市久士が初登頂に成功。17日にも佐々木晋、高橋剛文、金庭貴晴の3名も登頂した。

[隊長：亀井英二(52) 川上隆(65) 生亀知侑(61) 鈴木修(56) 佐々木晋(46) 高橋剛文(30) 佐藤俊一(30) 秋葉敏浩(30) 古市久士(27) 金庭貴晴(27) 田口登志江(26) 高品善(22)]

## 1-9 コクセル周辺の山

コングールの南には、コクセル・コルを挟んで、コクセル、カジセル(6525m)、サリヤチなどの峰がある。また、これらの前衛にも小ピークが沢山あり、コングールの展望台となっており、アプローチの近さもあって、今後、小登山の舞台になるものと思われる。既に行われた幾つかの記録は

下記のとおりである。

1) サリヤチ(又はサラキャグチ・6220m)

カジセルから南に続く稜線上にある。山名は、小カラクリ湖の対岸にある部落の名前をつけているが、この名前がボニントンの概念図ではSarakyaguqiであり、中国製の地図ではSa-

liyaqiとなっている。

1980年6月18日にコングールの偵察に入った、クリス・ボニントン(45)とアラン・ルース(28)が初登頂した。

## 2) 6012m峰 (Toothed Peak)

コングール・コルの北西にある7229m峰から南に延びる稜線にあるピーク。ボニントンはToothedと呼んでいる。

1981年6月5日ボニントン隊のチャールズ・クラーク(36)とエドワード・ウィリアムズ(57)が登頂した。

## 3) 5780m峰 (Rognon Peak)

BCからコクセル・コルに向かう途中右手にあるピーク。ボニントンはRognonと呼んだ。

1980年6月13日マイクル・ウォード(54)

とボニントンが試登。翌年6月3日ピーター・ボードマン(30)とチャールズ・クラークが登頂し、スキー滑降した。

1985年7月末青柳健ら22名のもんたにゆ会が小カラクリ湖にBCを置き、5100mにC2を出し27日3名がアタックしたが頂上直下で断念した。

[隊長：青柳健(55) 瀬戸川明(47) 清義孝(43) 奈須野清樹(35) 横田和弘(30) 井口晃一(27) 岡千曲(40) 斉藤かつら(57) 秋山文子(35) 石崎貞子(55) 小林英見 米山和男 米山方子 山本碧 他8名]

## 4) 5565m峰 (Trekks Peak)

コクセル南西尾根末端ピーク。ボニントンはTrekksと呼ぶ。1981年5月31日登頂。

# 1-10 チャクラギール (書克熱格勒・Chakragil)

\*山脈：パミール山脈・コングール山群

\*位置：コングール(7719m)の北西約37km。

[38° 52' N, 75° 09' E]

\*アプローチ：カシュガルまでは飛行機で2時間の旅。南西面のBCまでは、ブロンコまでジープで半日である。ここからラクダ一日で3700mの牧草地に着く。北面のBCまでは、カシュガルから85kmのオイタク路口から公路を離れ、35kmで2750mの放牧地に着く。ここから氷河までは徒歩20分である。

\*ルートの所要日数：88年に初登頂した、明治学院大学隊は、BC設営後2つのキャンプを出し16日目に登頂。

\*山の概念：主(西)峰6727m。200mほど低い東峰があり、北面の地元では主峰をチャクラウス、東峰をチャクラギールと呼び、全体をトゥットと呼んでいる、との報告がある。

\*通常の登山期間：6月～8月の夏期。

\*山名：キルギス語で「チキルの羊飼いの居住地」から転化した。

\*小史：1947年5月シプトンが北面を偵察。翌48年9月にシプトンとティルマンはシュルパのギャルツェンとキルギス人のマーマッド

を連れて南西面に入り、マーマットと3名が北稜直下の5300mにキャンプを出した。その夜マーマッドが重度の高山病になり、降ろすために下山。悪天と日数不足で登頂を断念した。

\*参考文献：k o b o l d コクセル峰初登頂特集(平成6年4月刊)

## 登山の概要

### ■ 主峰(6272mあるいは6678m)

1988年

8月～9月 南西稜 明治学院大学

8月16日3700mにBC設営。ポーター17名を使って4600m地点まで荷上する。30日5650mのコルにC2を出し、翌日隊長、蜂巢、中山の3名がアタックに出たが届かず、6400mでビパークとなり、9月1日揃って初登頂に成功した。

[隊長：平野操(38) 熊谷明(36) 蜂巢稔(21) 中山健次(19)]

[幸運な転進、初登頂のチャクラギール(明学山岳会 中国・チャクラギール登山隊)「山と溪谷642号」1989年1月号]

## ■ 寸 感 ■

今夏もまたインド・ヒマラヤの諸手続で煩わされた。春の隊から登山隊の隊荷の無関税措置をめぐってあれこれ悩まされた。新たな方法で隊荷を送り出したもののどうなる事か、と心配していたら案の定、引き出しにトラブルが生じたようである。あのくそ暑い保税倉庫でラチのあかない交渉をインド人相手にやらねばならなかった先発隊の苦労は察して余りある。

その上、今度は7月6日付のインフォメーションで全ての登山隊は登山ビザを取得してくるよう、と云う。インドの場合、このビザ問題があるから観光ビザでO.Kと云うストック・カンリにした隊もあったらうに、ほんとうに腹ただしい。

### 事務局日誌(7月)

- 1日(土) 角田家七夕忌(遠藤会長他)  
 労山登山報告会と壮行会(スクワール麴町、山森、八木原、尾形)
- 5日(水) CMA張江援行政部長、趙建軍、羅申氏と懇談(東京、遠藤、山森)

- 8日(土) ヌン隊家族会・壮行会(かんぼヘルスプラザ東京)
- 10日(月) ヒマラヤNo.285発送
- 15日(土) 30周年記念サガルマータ登山計画中止を申込金納入者に通知
- 17日(月) ヌン先発隊2名出発(飛行機トラブルで1日遅れる)
- 23日(日) ヌン隊酒井隊長ら9名が出発(AI-301便)
- 24日(月) 東京集会(4名)

### ヒマラヤ No.286 (9月号)

平成7年8月10日印刷 7年9月1日発行

発行人 稲田定重

編集人 尾形好雄

発行所 日本ヒマラヤ協会

〒170 東京都豊島区東池袋4-2-7

萬栄ビル501号

電話 03-3988-8474

郵便振替 00100-6-48954「日本ヒマラヤ協会」



### ガモフバッグとパルスオキシメーターのレンタル開始!

加圧しただけで約2000m下山したのと同じ環境を作るガモフバッグ、高山病診断、予防のためのパルスオキシメーター。高所を目指すあなたをそろって力強くサポートします。

- ガモフバッグ(携帯用高圧バッグ/総重量6.7kg)
- パルスオキシメーター  
(血中酸素飽和度測定装置/重量380g/単3乾電池4本使用/携帯型)

総代理店 : 日本メディコ株式会社

レンタル・販売問い合わせ先 : 株式会社 ティ・エッチ・アイ

〒135 東京都江東区木場2-5-7 KHビル7階

TEL : 03-5245-0511 FAX : 03-5245-0510

(隊荷の輸送、航空券の手配などもお任せください。)

## TREASURE TOUR



## EXPEDITION&TREKKING

自分の旅だから、自分でつくる。そんなあなたを応援いたします。

—— 遠征隊、トレッキング、秘境への旅 ——

あらゆる申請・許可取得、現地手配、航空券、山岳保険など、  
お客様のご要望に遠征経験豊富なスタッフがお答えします。



マウンテントラベル株式会社

〒105 東京都港区新橋3-26-3 会計ビル4F

☎03-3574-8880

三井航空サービス代理店2452号

## 遙かなる高み



個人・グループの手配旅行、航空券の取り扱い専門デスク



キャラバンデスク TEL03-3237-8384

～地球の果てまであなたのキャラバンのお手伝い～

トレッキング・登山隊の許可取得から航空券・現地手配までお引き受けいたします。  
～ネパール・インド・ブータン・パキスタン・東南アジア・アフリカ・南米～

トレッキング・海外登山  
シルクロード・秘境旅行  
のバイオンア



株式  
会社

# 西遊旅行

東京本社 〒101 東京都千代田区神田神保町2-2 新世界ビル5階 ☎03(3237)1391(代表)  
キャラバンデスク 〒101 東京都千代田区神田神保町2-2 新世界ビル4階 ☎03(3237)8384(代表)  
大阪営業所 〒530 大阪市北区神山町6-4 北川ビル5F ☎06(367)1391(代表)  
カトマンズ営業所 JAI HIMAL TREKKING(P) Ltd. P.O. BOX3017 KATHMANDU, NEPAL ☎221707  
運輸大臣登録一般旅行業607号

# ヒマラヤへの装備

●遠征隊の装備、相談にのります。



## Mt. EXPEDITION SHOP ICI ISHII SPORTS

- 登山本店 / 〒169 東京都新宿区百人町2-2-3 ☎03(3208)6601代
- スキー&カヌー本店 / 〒169 東京都新宿区大久保2-18-10 ☎03(3209)5547代
- 新宿西口店 / 〒160 東京都新宿区西新宿1-16-7 ☎03(3346)0301代
- 新宿南口店 / 〒151 東京都渋谷区代々木1-58-4 ☎03(5350)0561
- 神田登山店 / 〒101 東京都千代田区神田神保町1-8 ☎03(3295)0622
- 神田店 / 〒101 東京都千代田区神田神保町1-4 ☎03(3295)3215
- 神田ウェア館 / 〒101 東京都千代田区神田神保町1-6-1 ☎03(3295)6060
- 八王子店 / 〒192 東京都八王子市横山町3-12 ☎0426(46)5211
- アネックス八王子店 / 〒192 東京都八王子市横山町3-6 ☎0426(46)3922
- 川越店 / 〒350 埼玉県川越市南通町14番4 ☎0492(26)6751
- 大宮店 / 〒330 埼玉県大宮市宮町2-123 ☎048(641)5707
- 高崎店 / 〒370 群馬県高崎市新町5-3 ☎0273(27)2397
- 松本店 / 〒390 長野県松本市中央2-4-3 ☎0263(36)3039
- 新潟店 / 〒950 新潟県新潟市東大通2-5-1 ☎025(243)6330

- 新潟ブルーカ店 / 〒950 新潟県新潟市天神1-1 プラーク3 B1 ☎025(240)2316
- 仙台店 / 〒980 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-1-8 ☎022(297)2442
- 盛岡大通店 / 〒020 岩手県盛岡市大通1-10-16 ☎0196(26)2122
- 札幌店 / 〒060 札幌市中央区南二条西4-8 ☎011(222)3535
- ルート36真栄店 / 〒004 札幌市豊平区真栄一条2-13-2 ☎011(883)4477
- 北十二条店 / 〒001 札幌市北区北十二条西3-5 ☎011(747)3062
- 2番街店 / 〒060 札幌市中央区南二条西1-5 ☎011(219)1413
- 旭川店 / 〒070 旭川市六条通8-37-2 ☎0166(24)5300
- 外高部(メールオーダー) / 〒169 東京都新宿区百人町2-2-3 ☎03(3200)7219



ICI 石井スポーツ

事務所 / 〒169 東京都新宿区百人町1-4-15 ☎03-3200-1004